

省エネ計算のための図面読み取りマニュアル

— 演習図面（事務所併用住宅・木造軸組構法・2階建て）赤書き注釈版 —

■ この資料の見方

- ・図面上の 赤枠 = 省エネ計算（外皮・一次エネルギー）で参照する箇所
- ・①②… = 読み取り項目の番号。各図面の赤いパネルに解説を記載
- ・巻頭の「必要情報一覧」と巻末の「抑えるべきポイント集」を併用してください

■ 対象建物の概要

建て方	小規模な複合建築物（住宅+事務所の併用）
構造・階数	木造軸組構法・2階建て
延床面積	168.92㎡（1階102.68㎡ + 2階66.24㎡）
非住宅部分	1階事務所 29.81㎡（住宅の省エネ計算から除外）
断熱工法	床断熱（土間床部は外周部 ψ 計算）・天井断熱・充填断熱

■ 図面構成と主な用途

A0 表紙	建て方・構造の確認
A1 配置図	方位（真北）・所在地→地域区分
A2 求積図	床面積・壁芯寸法
A3 仕上表・断熱・設備	断熱仕様・開口部性能・設備 ※最重要
A4 1階平面図	開口部・居室区分・非住宅範囲
A5 2階平面図	開口部・外気に接する床
A6 立面図	方位別外壁面積・屋根
A7 矩計図	高さ寸法・断熱材の厚さ/構成
A8 基礎伏図	土間床の面積・外周長さ

※ 出典：一般社団法人住宅生産団体連合会「省エネ基準に基づく省エネ計算 演習図面」（令和2年度第1版）を基に、省エネ計算用の赤書き注釈を加筆したものです。関連団体の著作物ではありません。（久保田設計サポート）

省エネ計算 必要情報一覧 ― どの図面から何を拾うか

区分	計算に必要な情報	参照図面	この演習図面での値・メモ
基本	建て方(住宅/非住宅の区分)・構造	A0・A4	複合建築物。事務所29.81㎡は非住宅として除外
基本	所在地 → 地域区分・年間日射地域区分	A1	演習は〇〇市(任意)。実案件は市町村ごとの告示区分表で確認
基本	方位(真北)	A1・A4・A5	外皮・窓の方位は真北±22.5°で8方位に区分
面積	床面積(壁芯)	A2	1階102.68㎡/2階66.24㎡/延べ168.92㎡
面積	外皮の平面寸法	A2・A4・A5	1階14.560×7.280/2階9.100×7.280
面積	階高・高さ寸法	A7	外壁面積用の高さ：1階2.895m/2階2.961m
面積	方位別の外壁面積	A6	南北69.10㎡・東西42.63㎡(開口部を引く前)
面積	土間床の面積・外周長さ	A8	DF01：6.21㎡ 外気側3.64m/その他8.19m
外皮	断熱材の種類・熱伝導率λ・厚さ	A3・A7	天井155/壁105/床80mm(高性能GW HG16-38・36)
外皮	外気に接する床の断熱	A5・A7	2階張り出し部：HG16-38 t=155mm
外皮	窓の熱貫流率U・日射熱取得率η	A3	U=2.75・η=0.32(樹脂金属複合・Low-E複層 日射遮蔽型)
外皮	玄関ドアの熱貫流率U	A3	U=3.49(金属製・Low-E複層)
外皮	開口部の寸法・位置・方位	A4・A5・A6	AW-1～21(窓)・AD-1～5(ドア) W×H表記
設備	暖冷房設備	A3	ルームエアコン 区分(は) 1階4.0kW/2階2.2kW×3
設備	換気設備	A3・A4	第3種(壁付パイプファン) 換気回数0.5回/h
設備	給湯設備・節湯	A3	エコジョーズ 熱効率92.5%・追焚あり・節湯A1・ヘッダー13A
設備	照明・太陽光・コージェネ	A3	全室LED/太陽光なし/コージェネなし

※ 値はすべて本演習図面のもの。実案件では必ず当該物件の図面・カタログ値に置き換えること。

建築物省エネ法

省エネ基準に基づく省エネ計算

演習図面

※省エネ計算マニュアル用に参照したものであり関連団体の著作ではありません。（久保田設計サポート）
<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/04.html#cont3>

【省エネ計算】この図面で確認すること

①建て方=「小規模な複合建築物」：住宅(住居部分)と非住宅(1階事務所)の併用建物。省エネ計算は 住宅部分=外皮(UA・ η AC)+一次エネ計算、非住宅部分=別途(モデル建物法等)に分けて行う。

②構造=木造軸組構法：充填断熱のため、外皮計算の熱橋は「軸組構法用の面積比率」を使う。

◆ポイント：最初に「どこまでが住宅部分か」を平面図(A4)で確定させてから数量を拾い始めること。

①建て方・構造の確認	
建て方	① 小規模な複合建築物
構造	木造軸組構法

①

真北

②

計画概要

工事名称	〇〇〇〇様邸事務所併用住宅新築工事		
建築主	住所	△△県△△市△△町△-△	
	氏名	〇〇 〇〇	
敷地概要	地名地番	〇〇県〇〇市〇〇町〇番〇号	
	住居表示	〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇	
	敷地面積	251.97㎡	
	都市計画区域	都市計画区域内(市街化区域)	
	用途地域	第1種低層住居専用地域	
	防火地域	準防火地域	
	指定建蔽率	70.00%	
	指定容積率	200.00%	
	高さ制限	10m	
	高度地区	-	
日影規制	-		
外壁の後退	なし		
風致地区	指定なし		
その他の指定	なし		
道路	前面道路	6.0m、接道長さ	18.00m
建築概要	構造	木造軸組構法	
	階数	2階建て	
	最高高さ	8.360m	
	軒高さ	6.420m	
	建築面積	105.99㎡	
	1階床面積	102.68㎡	
	2階床面積	66.24㎡	
	延床面積	168.92㎡	
	容積対象床面積	168.92㎡	
	建蔽率	42.07%	
容積率	67.04%		
公的融資			
予定工期	20**年*月～20**年*月		

③

敷地面積

	底辺 (m)	高さ (m)	倍面積 (㎡)
①	22.803	11.050	251.973150
②	22.803	11.050	251.973150
倍面積	計		503.946300
敷地面積	(㎡)		251.97

③

トータル面積表

		(㎡)
敷地面積		251.97
建築面積		105.99
床面積	1階	102.68
	2階	66.24
延床面積		168.92
建ぺい率	(105.99/251.97) × 100	42.07%
容積率	(168.92/251.97) × 100	67.04%

凡例

排水樹

最終樹

雨水樹

GL=BM±0

楕円内の数値はBMからの値を示す

①真北マーク：外皮・開口部の方位はすべて真北基準。真北±22.5°で8方位(北/北東/東/南東/南/南西/西/北西)に区分する。

②計画概要(所在地)：建設地の市町村から「省エネ基準の地域区分(1～8)」と「年間日射地域区分」を決定する。演習図面は〇〇市のため任意設定。実案件では必ず告示の地域区分表で確認。

③面積総括：延床168.92㎡(1階102.68+2階66.24)。求積図(A2)の値と一致するか検算する。

◆ポイント：日除け(庇)の効果を省略しデフォルト値を使う場合でも、方位の判定は省略できない。

工事名

〇〇〇〇様邸

事務所併用住宅

新築工事

〇〇〇〇一級建築士事務所

図面名

配置図

図面No.

1

備考

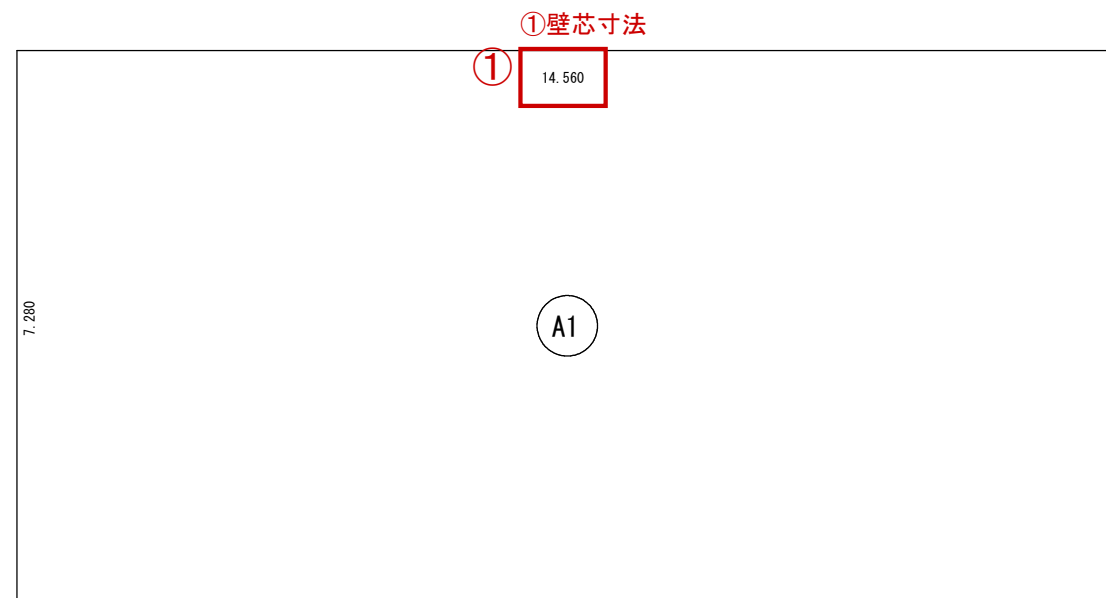
一級建築士事務所 〇〇〇知事登録〇〇〇〇号

一級建築士大臣登録第〇〇〇〇〇号

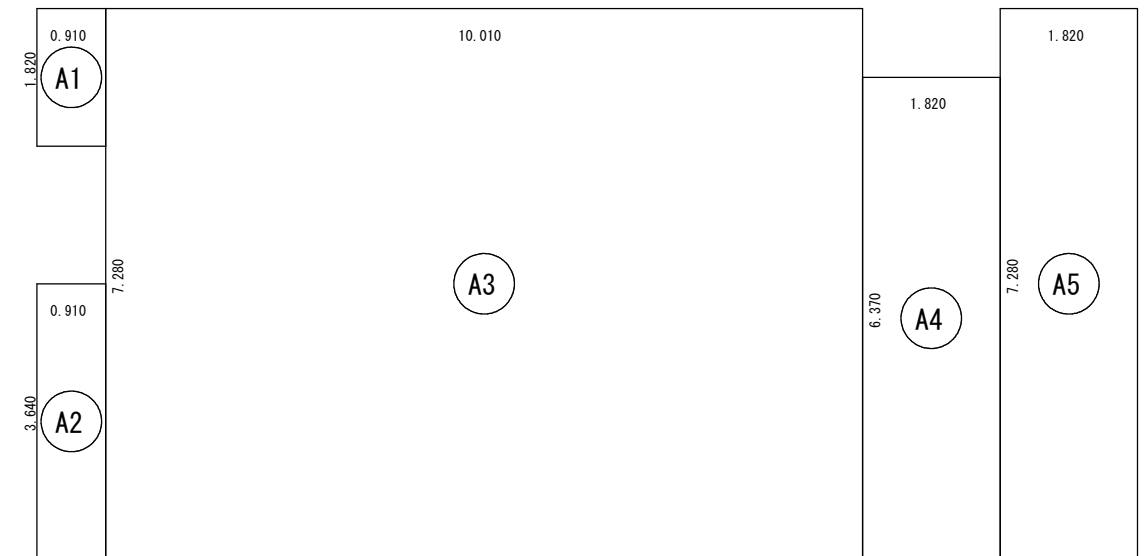
〇〇 〇〇 印

縮尺

1/100

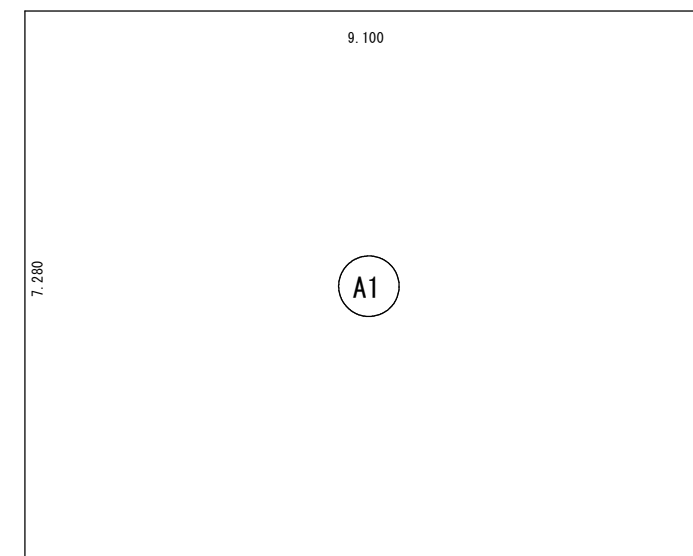


建築面積表			
	形状	計算式	面 積
①	矩形	14.560×7.280	105.996800
面積		計 (㎡)	105.99
		(坪)	32.06



②

	形状	計算式	面積
(A1)	矩形	0.910×1.820	1.656200
(A2)	矩形	0.910×3.640	3.312400
(A3)	矩形	10.010×7.280	72.872800
(A4)	矩形	1.820×6.370	11.593400
(A5)	矩形	1.820×7.280	13.249600
面積		計 (㎡)	102.06
		(坪)	31.06



③

床面積表<2階>			
	形状	計算式	面積
④1	矩形	9.10×7.280	66.248000
面積		計(㎡)	66.24
		(坪)	20.03

【省エネ計算】この図面から拾う情報

①寸法はすべて壁芯。求積図の矩形寸法(14.560×7.280など)が、床・天井面積や外壁長さの元データになる。

①1階102.68㎡ ③2階66.24㎡ → 延べ168.92㎡。断熱区画面積・一次エネ計算の床面積に使用。

◆ポイント：玄関等の土間床部分は床断熱の面積から控除する(A8基礎伏図参照)。

地
: ○○県○○市○○町□番□号

外部仕上表

部位	仕様	備考
屋根	ルーフィング下地野地板 洋瓦葺	認定番号 NM-〇〇〇〇
軒天	防火軒天ボード（EP塗装） 軒裏換気口	認定番号 QF045RS-9122 認定番号 QF030RS-0011
外壁	構造用合板 1 類 9mm 透湿防水シート	サイディング横貼
樋	— —	軒樋 市販品塩ビ105 竖樋 市販品塩ビ105
玄関ポーチ	磁器タイル 150角	
基礎	モルタル刷毛引き 水切：カラー鉄板	

内部仕上表

部屋名称		床		壁		天井	
		下地	仕上	下地	仕上	下地	仕上
1階	玄関・シューズ・クローク	モルタル下地	磁器質タイル 150×150	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	廊下	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	キッチン (5帖)	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	耐水PB下地 t=12. 5	耐水ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	ダイニング (7. 8帖)	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	リビング (9帖)	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	洗面脱衣室	構造用合板 t=24	クッションフロアー t=2. 3	耐水PB下地 t=12. 5	耐水ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	UB		ユニットバス床	PB下地 t=12. 5	ユニットバス壁	ユニットバス天井	
	トイレ	構造用合板 t=24	クッションフロアー t=2. 3	耐水PB下地 t=12. 5	耐水ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	収納	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15		化粧石膏ボード t=9. 5	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	階段	構造用合板 t=24	集成材	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	玄関 (事務所)	モルタル下地	磁器質タイル 150×150	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	事務所	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	洗面所 (事務所)	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	耐水PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	トイレ (事務所)	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	耐水PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	倉庫 (事務所)	モルタル下地	磁器質タイル 150×150	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
2階	ホール	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	洋室A (12帖)	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	洋室B (6帖)	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	洋室C (6帖)	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	トイレ	構造用合板 t=24	クッションフロアー t=2. 3	耐水PB下地 t=12. 5	耐水ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	ウォークインクローゼット	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	クローゼット	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板PB下地 t=15	t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	納戸	構造用合板 t=24	WPC フローリング合板 t=15	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	
	階段		集成材	PB下地 t=12. 5	ビニールクロス	PB下地 (GB-R) ビニールクロス t=9. 5	

①断熱仕様 ※最重要

断熱材リスト	
断熱材	
天井	
壁	
その他床	
外気に接する床	
土間床等の外周部の外気に接する部分	
土間床等の外周部のその他の部分	

開口部

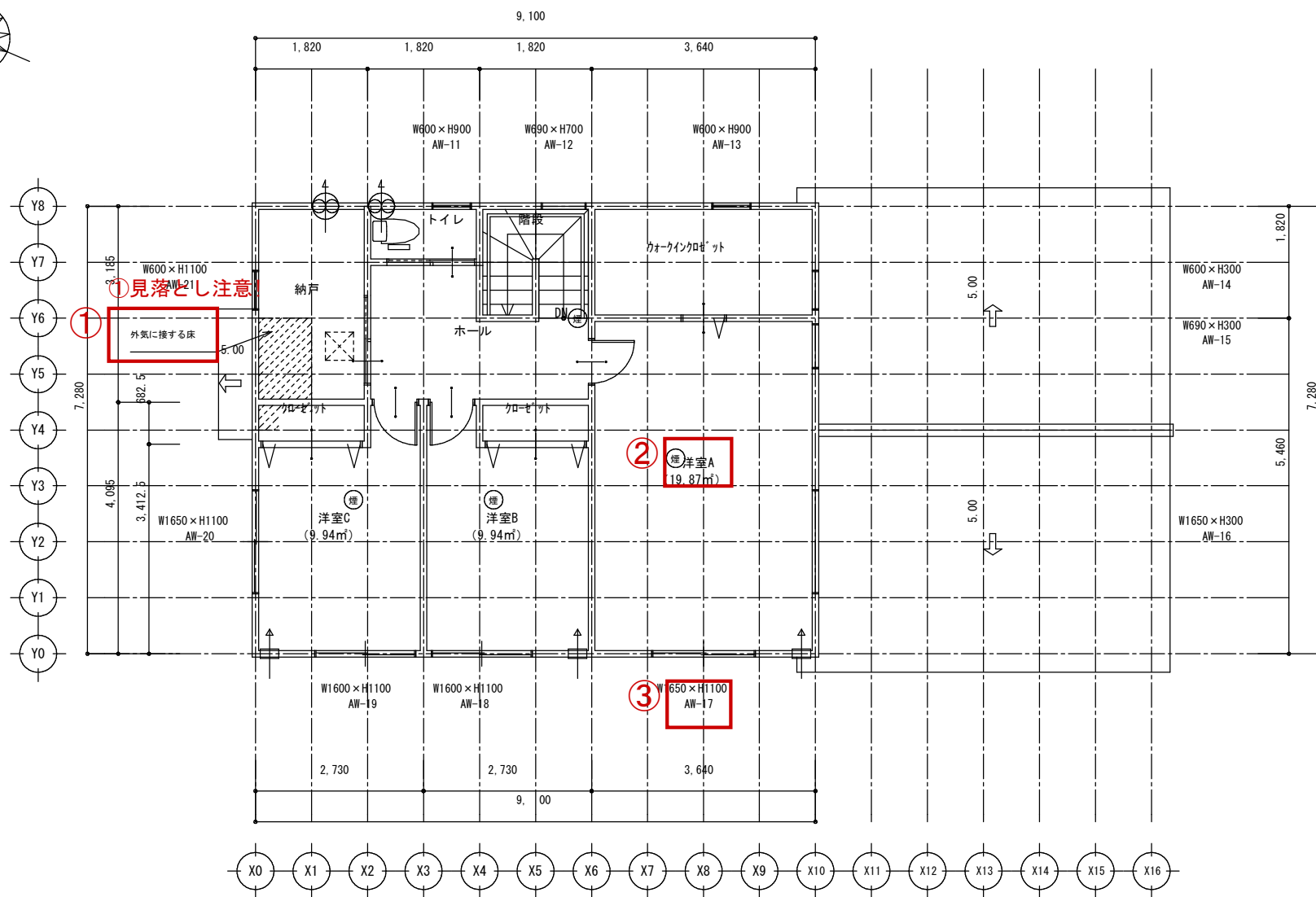
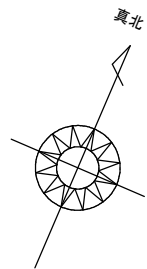
②開口部の熱性能

開口部	建具の仕様	ガラスの仕様	備考
窓	樹脂と金属の複合材料製建具	Low-E 複層ガラス (日射遮蔽型) ガス封入なし、中空層10mm	熱貫流率：2. 75 (W/m ² ・K) 日射熱取得率：0. 32
	戸：金属製ハニカムフラッシュ 枠：金属製 ポストなし/ 2 ロック/ 窓込み錠	Low-E 複層ガラス ガス封入なし、中空層7mm	熱貫流率：3. 49 (W/m ² ・K)

③一次エネルギー計算の設備入力

設備機器表 (住宅部分)						
設備	種別	位置		仕様	数量	備考
		階数	室名			
暖冷房設備	ルームエアコンディショナー	1階	リビング ダイニング キッチン	メーカー 〇〇〇〇〇 品番 XY-400〇〇〇 定格冷房能力 4. 0 (kW) 定格冷房消費電力 1, 350 (W) エネルギー消費効率 2. 96 エネルギー消費効率の区分 (は)	1	個別リモコン
	ルームエアコンディショナー	2階	洋室A 洋室B・洋室C	メーカー 〇〇〇〇〇 品番 XY-220〇〇〇 定格冷房能力 2. 2 (kW) 定格冷房消費電力 595 (W) エネルギー消費効率 3. 70 エネルギー消費効率の区分 (は)	3	個別リモコン
(床暖房設備)	設置なし	—	—	—	—	
換気設備	壁付式第3種換気設備 (パイプファン)	1・2階	トイレ (1・2階) 洗面脱衣室 (1階) 納戸 (2階)	メーカー 〇〇〇〇〇 品番 XY-08〇〇〇〇9D	4	24時間常時・局所換気兼用
	換気回数：0. 5回/ h	1階	UB	メーカー 〇〇〇〇〇 品番 XYZ-17〇〇8V	1	局所換気
(熱交換型換気設備) 設置なし		—	—	—	—	
給湯設備	ガス 潜熱回収型給湯機 (エコジョーズ) ふろ給湯機：追焚あり	—	—	メーカー 〇〇〇〇〇 品番 XYZ-E2406〇 給湯部モード熱効率： 92. 5%	1	
給湯配管	ヘッダー方式	—	—	ヘッダー分岐後の全ての配管径が13A以下	—	
節湯設備	台所水栓	1階	キッチン	シングルレバー水栓	—	
	浴室水栓		UB	サーモスタットシャワー水栓手元止水機構 (節湯A1)		
	洗面水栓		洗面脱衣室	シングルレバー水栓		
	浴槽		UB	通常品		
照明設備		1階	リビング・ダイニング キッチン	すべての機器においてLEDを使用している	—	
		1・2階	洋室A・洋室B 洋室C	すべての機器においてLEDを使用している	—	
		1・2階	玄関・廊下・トイレ 洗面脱衣室・階段地	すべての機器においてLEDを使用している	—	
太陽光発電設備	設置なし	—	—	—	—	
コージェネレーション	設置なし	—	—	—	—	

〇〇〇〇一級建築士事務所 一級建築士事務所 〇〇〇知事登録〇〇〇〇号 一級建築士大臣登録第〇〇〇〇〇号 〇〇 〇〇 印	図面名 1 階平面図・設備機器表（事務所）	図面No. 4
	縮尺 1/100	



- * 凡例
- 熱式感知器
 - 煙式感知器
 - 床下点検口
 - 天井点検口
 - トラップ (掃除可能)
 - 排水樹
 - 最終樹
 - たて樋
 - 雨水樹
 - 換気扇 (壁用)
 - 局所換気 (天井)
 - 吸気口

【省エネ計算】2階平面図

- ①「外気に接する床」=下階がない張り出し部分。断熱材はその他の床 (80mm) ではなく 155mm (HG16-38)。忘れやすいので必ず拾う。
- ②洋室A・B・C=「その他の居室」(19.87+9.94+9.94=39.75㎡)。
- ③2階の窓AW-11～21。方位は真北マーク (左上) を基準に判定する。
- ◆2階 (9.10×7.28) は1階 (14.56×7.28) より小さい → 1階の下屋部分の天井も「天井断熱」の面積に加算する。

工事名 ○○○様邸

事務所併用住宅

新築工事

○○○○一級建築士事務所

図面名

2階平面図

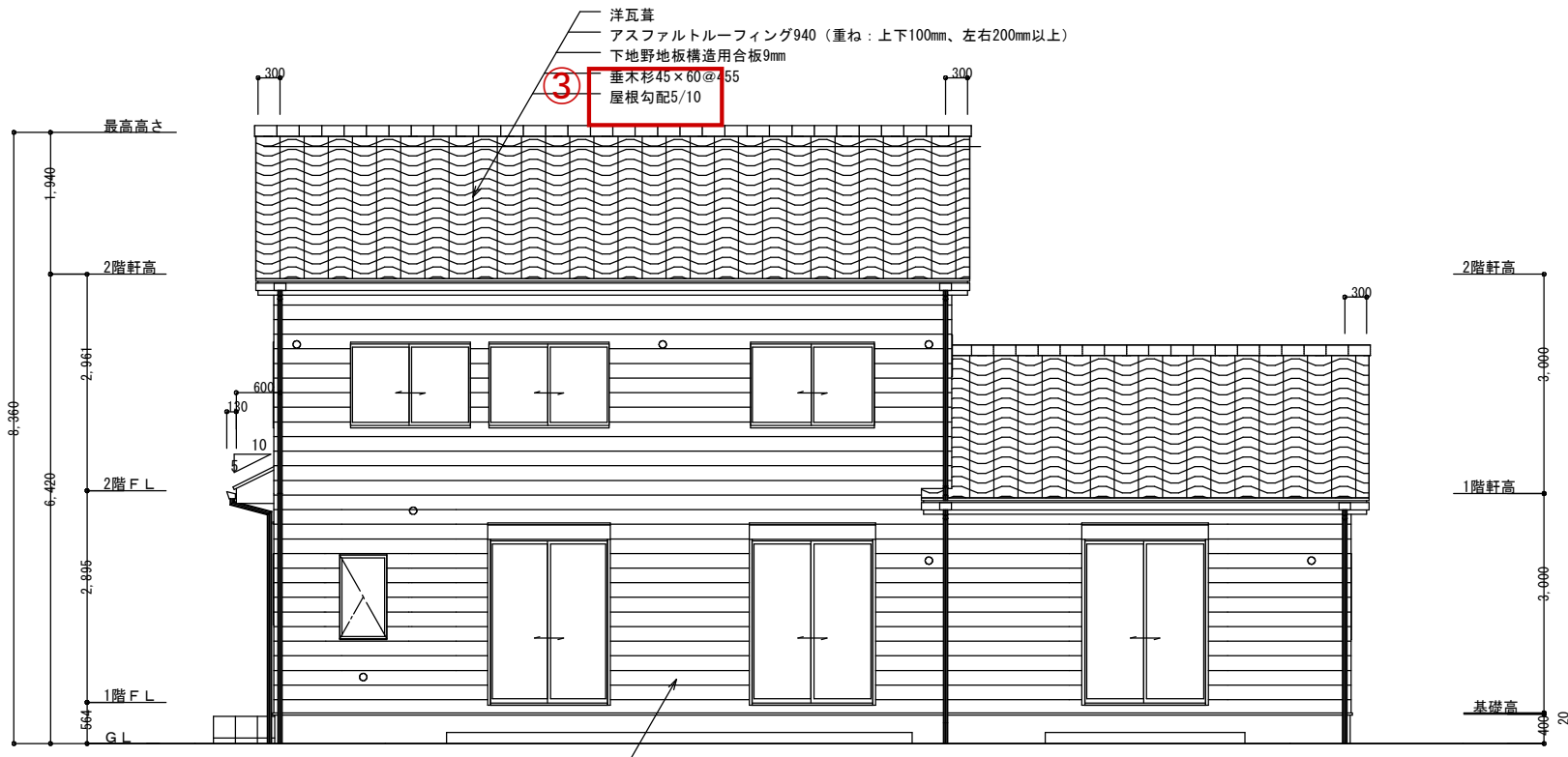
図面No.

5

備考

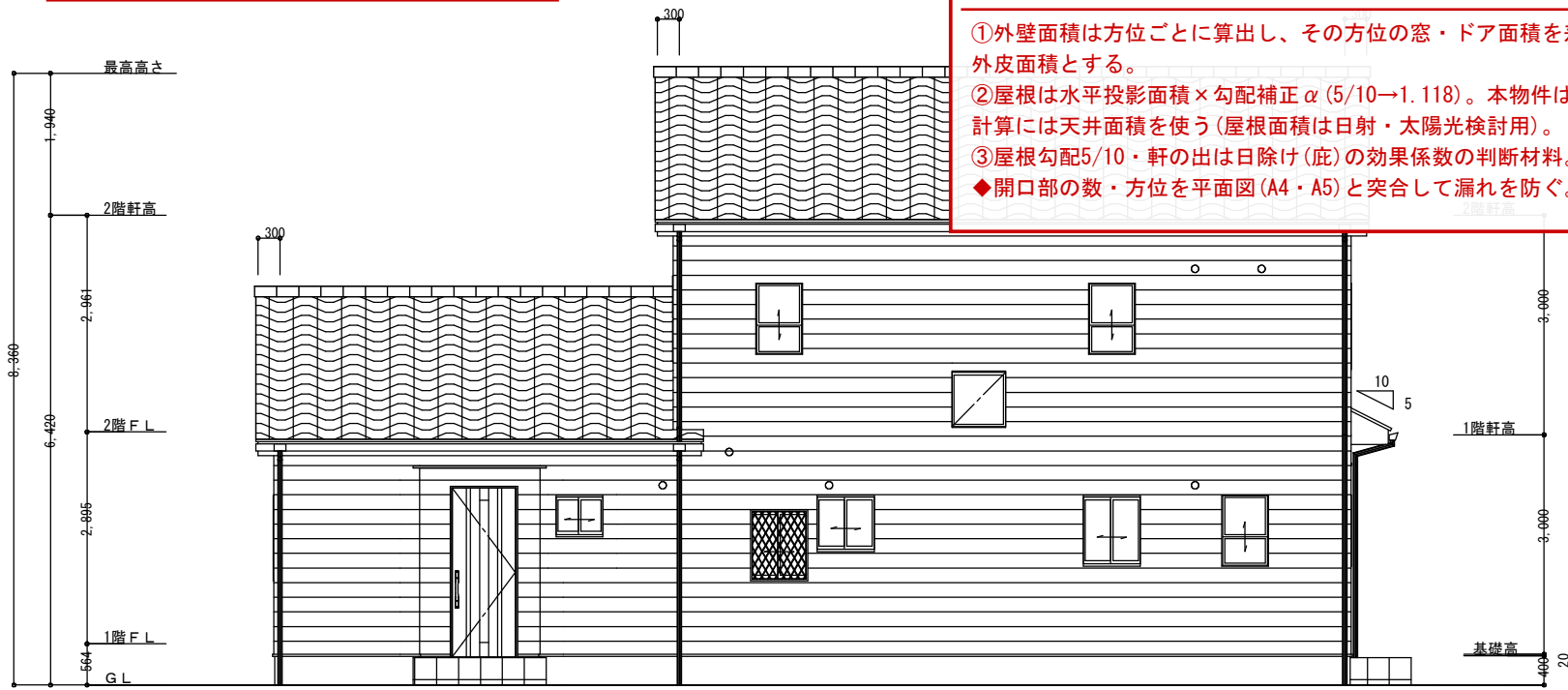
一級建築士事務所 ○○○知事登録○○○○号
一級建築士大臣登録第○○○○○号 ○○ ○○ 印

縮尺 1/100



① 外壁面積 : $14.560 \times 2.895 + 9.100 \times 2.961$
= 42.1512 + 26.9451 = 69.0963 $\approx$ 69.10m²

南側 立面図



外壁面積 : $14.560 \times 2.895 + 9.100 \times 2.961$
= 42.1512 + 26.9451 = 69.0963 $\approx$ 69.10m²

北側 立面図

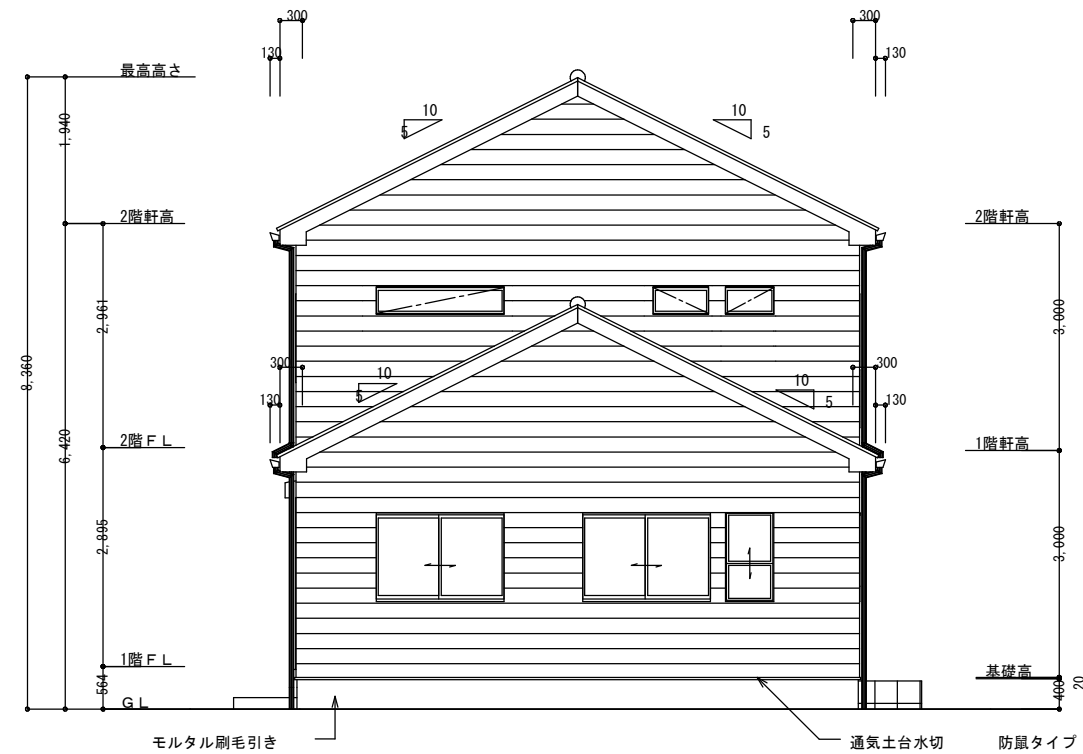
【省エネ計算】立面図

①外壁面積は方位ごとに算出し、その方位の窓・ドア面積を差し引いて「外壁」の外皮面積とする。

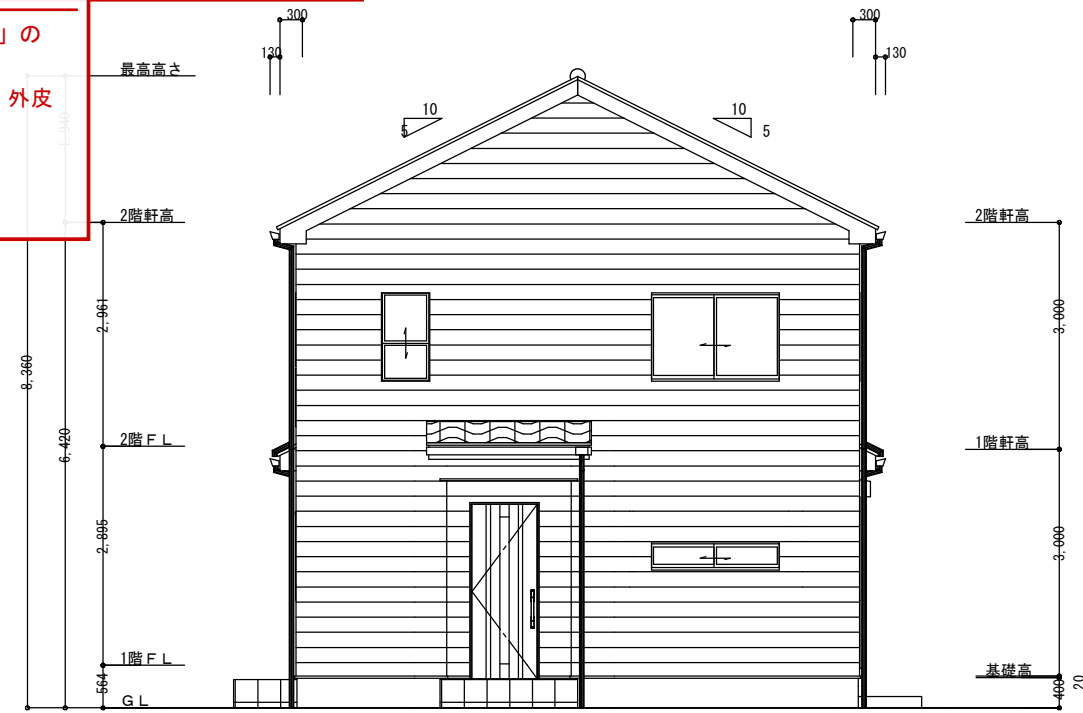
②屋根は水平投影面積×勾配補正 α (5/10→1.118)。本物件は天井断熱のため、外皮計算には天井面積を使う(屋根面積は日射・太陽光検討用)。

③屋根勾配5/10・軒の出は日除け(庇)の効果係数の判断材料。

◆開口部の数・方位を平面図(A4・A5)と突合して漏れを防ぐ。



東側 立面図



外壁面積 : $7.280 \times 2.895 + 7.280 \times 2.961$
= 21.0756 + 21.5561 = 42.6317 $\approx$ 42.63m²

西側 立面図

② 屋根01 = $9.682 \times 3.894 \times 2 + 6.049 \times 3.896 \times 2$
= 122.337224
屋根面積 = 屋根01 × 1.118
= 136.8966 = 137.00m²

※屋根の幅・高さは立面図の瓦ハッチ範囲からの実測(2階屋根9.682×3.894 下屋6.049×3.896 各南北2面)。勾配5/10 α =1.118。軒先の斜まりは未検証。

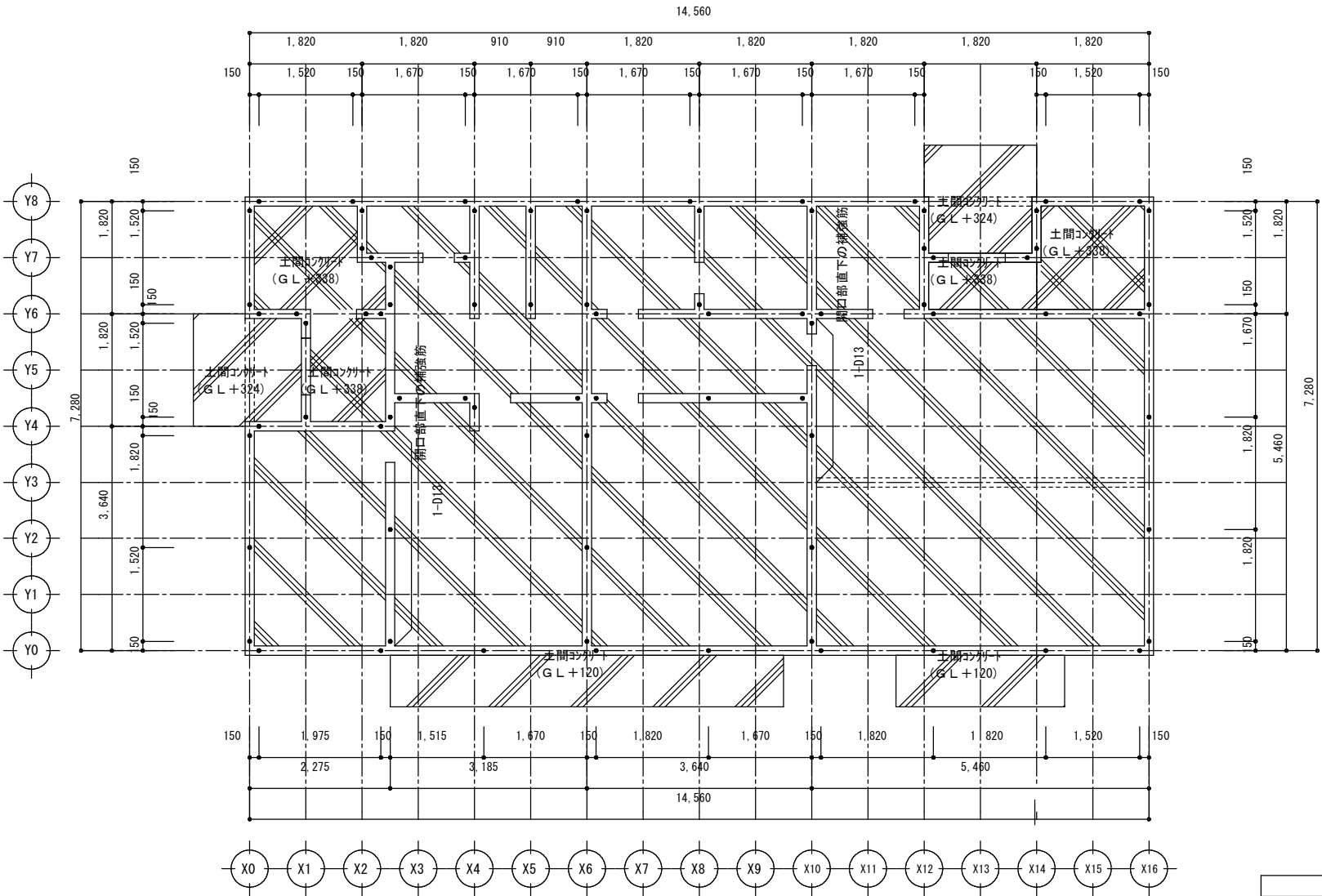
工事名	〇〇〇〇様邸	事務所併用住宅	新築工事	〇〇〇〇一級建築士事務所	図面名	立面図	図面No.	6
備考				一級建築士事務所 〇〇〇知事登録〇〇〇〇号 一級建築士大臣登録第〇〇〇〇〇号	縮尺 1/100			



工事名	〇〇〇〇様邸	事務所併用住宅	新築工事	〇〇〇〇一級建築士事務所 〇〇〇〇知事登録〇〇〇〇号 一級建築士大臣登録第〇〇〇〇〇号	図面名	矩計図 縮尺 1/30	図面No. 7
備考							
					〇〇 〇〇 印		

- ①
- ②
- 土間床DF01（住宅玄関・シューズボックス）
面積＝1.820×0.910＋2.275×0.910＋1.365×1.820　＝6.21075
外周長さ（外気側）＝1.820＋1.820　＝3.64m
外周長さ（その他）＝2.730＋1.820＋1.365＋0.910＋0.910＋0.455　＝8.19m
- 土間床DF02（事務所玄関・倉庫）
面積＝1.820×0.910＋3.640×0.910　＝4.9686
外周長さ（外気側）＝1.820＋1.820　＝3.64m
外周長さ（その他）＝3.640＋1.820＋0.910＋0.910　＝7.28m

※基礎立ち上がり（軸±76、幅150）でセル分割し、クロスハッチの有無で土間コンクリートを判定。全6領域の合計106.0㎡=建築面積105.9968㎡で換算。
※区分の前提：建物外周（外壁線）に接する辺=外気に接する部分／床断熱部分との境界=その他の部分。床断熱・土間床等の外周部は断熱材なし（仕上表）。



凡例

コ

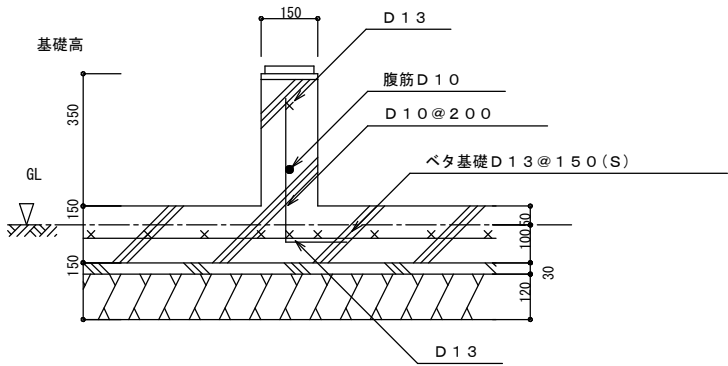
床下人入口

●

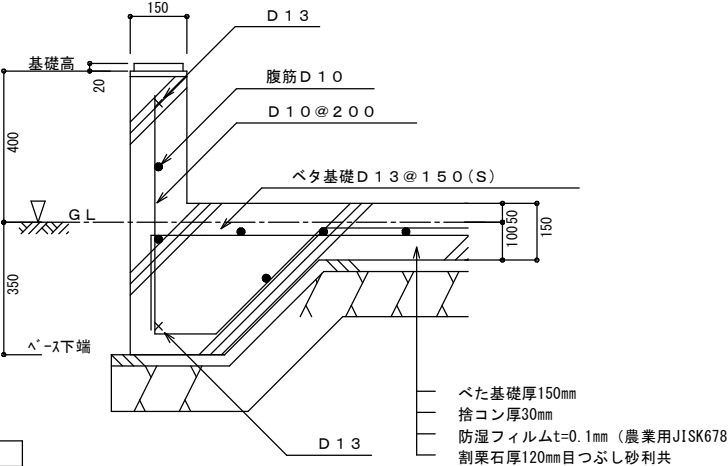
アンカーボルト

●

ホールダウンアンカー



内部基礎断面S=1/20



③ 外周基礎断面S=1/20

【省エネ計算】基礎伏図

- ①住宅玄関等の土間床DF01：面積6.21㎡・外周は外気側3.64m/その他8.19m。
②事務所玄関・倉庫DF02：面積4.97㎡（非住宅部分・参考）。
③土間床等の外周部は断熱材なし → 線熱貫流率ψは「基礎断熱なし」の値で計算する。
◆土間床面積は床断熱面積から控除。外気側とその他側の外周長さを混同しない。

工事名	〇〇〇〇様邸	事務所併用住宅	新築工事
備考			

〇〇〇〇一級建築士事務所

一級建築士事務所 〇〇〇知事登録〇〇〇〇号
一級建築士大臣登録第〇〇〇〇〇号

〇〇 〇〇 印

縮尺 1/100

図面No.

抑えるべきポイント集 — よくある落とし穴

1. 事務室は住宅の計算に入れない

事務所29.81㎡は非住宅部分。複合建築物では住宅部分と非住宅部分で計算方法が分かれる。住宅の外皮UA・ η ACIにも一次エネの床面積にも算入しない。

2. 床面積の区分を最初に確定する

主たる居室=LDK 36.23㎡/その他の居室=洋室A・B・C 39.75㎡/残りが非居室。一次エネ計算はこの3区分の床面積が入力の土台になる。

3. 土間床は「外周部の線熱貫流率 ψ 」で計算

床断熱の建物でも玄関・シュークローク等の土間床は面積から控除し、外周長さ(外気側/その他側を区別)で ψ 計算する。本物件は土間床外周部の断熱なし。

4. 「外気に接する床」を見落とさない

2階の張り出し部(オーバーハング)は外気床。断熱厚はその他の床80mmではなく155mm。矩計図の参考図で構成を確認。

5. 断熱材は品番・ λ ・厚さを図面間で突合

仕上表(A3)と矩計図(A7)の両方に記載がある。HG16-38(λ =0.038)とHG16-36(λ =0.036)の取り違えに注意。矛盾があれば設計者に確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

図面間で品番・ λ ・厚さを突合し、断熱材の仕様を確認する。断熱材の仕様は図面間で確認する。

6. 窓はUと η の両方、ドアもU値で計上

窓はU=2.75と η =0.32をセットで拾う(暖房期・冷房期の η 補正は方位と庇で変わる)。ガラス付き玄関ドアはU=3.49で開口部として計算。

7. 外壁面積は方位別に、窓を引いてから

立面図の方位別外壁面積から、その方位の開口部面積を差し引いた残りが外壁の外皮面積。妻壁・下屋部分の拾い忘れに注意。

8. 天井断熱なら外皮は「天井面積」

本物件は天井断熱のため勾配補正した屋根面積(×1.118)は外皮計算には使わない。2階天井+1階下屋部分の天井を合算する。

9. 設備は「方式・効率・付帯条件」まで拾う

換気: 第3種・0.5回/h・ダクト有無。給湯: エコジョーズ92.5%・追焚あり・節湯A1・ヘッダー13A。照明: LED。エアコン: エネルギー消費効率の区分(は)。

10. 検算を習慣にする

面積・寸法はすべて壁芯。1階102.68+2階66.24=168.92㎡のように、求積表の合計と入力値の一致を必ず確認してから提出する。

◆最重要: 「図面に書いていないことを勝手に仮定しない」。断熱材・建具・設備の仕様が読み取れない場合は、必ず設計者に確認してから計算する。確認した内容はメモとして計算書に残す。